

● 静なる事林の如き

盟休後の製鐵所

緊急八幡市會協議會

を主催せしも結局不干渉主義採用

命旦夕に迫る熔鑛爐

▲市會の委員派遣

議論 百出の結果

二十六日午前九時より市役所禮堂に於て市會議員區長聯合の緊急協議會を開催し市長は簡單に開會の主旨を述べて曰く製鐵所職工が前後二回に亘る同盟罷業を爲したるに付いては製鐵所としては大に御困りのことと存じます随つて國家の非常なる損失なるのみならず八幡市の受くる影響は容易ならぬことと云ひます市中大小の商店は殆ど休業の状態であるが此状態が今後永続するに於ては市は有形無形に及ぼす影響は少なからぬのと思ふます爲に益々悲境に陥る譯ですから市として此際何か名案はなきか諸君の御意見を承はり度と申す御意見を煩はした次第であります

議員中現今の状態は市の商況の打撃甚だ大なるに況し此際製鐵所職働者との仲間に立ち向ふか緩和策を講じたし或ては非公式でも仲裁機關様のものを設けては如何との意見も出たが市としては此際自ら好んで其争議の渦中に捲き込まれ抜き差しならぬ様の事にせざるば將來正十二時閉會したり

▲双方の誤解か

長官は逃げたのでない云ふ職工は不埒な態度だと憤慨

次に職員中製鐵所の事情に精通せるものより詳細に新聞記事にするは恰も死兒の命を計ふるに似たり

前田侯夫妻の出發佛國へ

前田侯夫妻は夫人淡子共二十三日八時三十分東京驛を出發したり尚候は途中伊神宮山御殿に参拜二十六日神戸



▲構内喧

無期休業後の熔鑛爐を見舞ふ二十五日午後三時過東門入り熔鑛爐迄の間實して人影なく其寂然たる情も無人の地に入らぬが如しに熔鑛爐より落下する物々々水聲を聞くときは身は深山幽谷に在りて暮色蒼然哀猿の聲を聞くの感じがした事務室に歸静を訪ひ中止に就いての警候置業を仰いて見ると同氏の曰く鑛爐は吹き止めてから一週間十日間位で繼續の出来ぬこととは無ひもです併し再び吹き入れは出来ませんが其作業の成績が即日から元の様に行くことは不可能

▲製鐵所の無期休業斷行

其の決心

製鐵所が突然廿九日無期休業の決定を爲せば如何なる理由に基くものなるか探問する所に依れば前同間休業以來職工一般の情動振りを推して憤氣満々にての生産能率を激減するのみならず斯かる状況の下に作業を持続するに於ては徒らに將來

確に説示せられた

この加藤氏の申入れに對し長官明日部長會に諮り取極の上